

大正五年四月六日第三種郵便物認可
大正十一年一月二十八日印刷納本(毎月一回一日發行)

哲 學 研 究

第七卷第二册

第十七號

大正十一年二月一日發行

カントに於ける認識客觀性の問題(承前).....

.....文學士 岡野留次郎

教育活動の本質.....文學士 勝部謙造

シエルリングに於ける自由の哲學の發展(承前).....

.....文學士 世良壽男

文化價值體系問題(三).....文學博士 米田庄太郎

京 都 帝 國 大 學 文 學 部 內

京 都 哲 學 會

京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
- 一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク
- 一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名)京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
- 一、書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
- 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

書記

文學博士	植田	壽藏
文學博士	狩野	直喜
文學博士	小西	重直
文學博士	澤村	專太郎
文學博士	高瀬	武次郎
文學博士	田邊	元成
文學博士	千葉	胤成
文學博士	朝永	三十郎
文學博士	西田	幾多郎
文學博士	野上	俊夫
文學博士	波多	野精一
文學博士	深田	康算
文學博士	藤井	健治郎
文學博士	松本	文三郎
文學士	務臺	理作
文學博士	米田	庄太郎
寶嚴	方夫	

寄贈書籍雜

ロイス道德哲學

東京 風見謙次 譯
岩波書店 發行

ウオツパーミン
基督教的神の信仰

東京 佐野勝也 譯
文學士 ロゴス社 發行

哲學研究、丁西倫理講演集、心理研究、東洋哲學、六合雜誌、日華公論、教育研究、内外教育評論、學校教育、教育、教育學術界、教育時論、國際聯盟、精神運動、種蒔く人、理科教育、教育界、文化運動、藥王樹

前 號 目 次

社會の地域的解放……………	文學士 高田保馬
カントの平和觀に就て……………	文學博士 朝永三十郎
個性の問題……………	文學士 三木清
文化價值體系問題(二)……………	文學博士 米田庄太郎

會 告

一、本會へ入會希望ノ方ハ直接本會宛テニ規定ノ會費（前表紙裏ニアリ）御納付ノ上御申込被下度候
 一、會員ニシテ轉居ノ節ハ直チニ其旨御報知被下度候
 一、會費ハ振替口座大阪參〇六六番、京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學
 文學部内 京都哲學會
 振替口座大阪參〇六六番

註 文 規 定

◎會員にあらざる識讀者の御註文及び廣告に關する件は内
 外出版株式會社へ御申込下され度候
 ◎本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下さるべく候
 ◎振替貯金にて御送金は（振替大阪三二九五番）内外出版株式會社宛に願上候
 ◎前金切れの場合は帶封に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候
 ◎特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候

定 價

冊	數	定	價	稅
一冊	冊	金	四拾錢	壹錢
六冊	冊	金	貳圓四拾錢	不申
十二冊	冊	金	四圓八拾錢	不申

廣告料

一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

大正十一年一月廿八日印刷納本
 大正十一年二月一日發行

第七十一號 第七卷 第二册

許不 複製
 禁 轉 載

編輯者 京都帝國大學文學部内 京都哲學會

右代表者 寶嚴方夫

發行者 大谷仁兵衛

印刷者 須磨勘兵衛

印刷所 内外出版株式會社印刷部

發行所

京都市下京區西洞院七條下

内外出版株式會社 振替口座大阪三二九五番

發賣元

京都市下京區西洞院通七條下
 東京市京橋區加賀町十番地
 振替口座大阪三二九五番

賣捌所

(東京) 東京堂、東海堂、北隆館、
 上田屋、(大阪) 盛文館、三文社
 (神戸) 寶文館、川瀨書店
 (京都) 共盛社

同志社大學 文學士 荒木良造 著

詭辯と其研究

一に議論二に議論三に議論の世の中になつて來た。而も吾々は所謂詭辯の爲めに惱まされ、曲論の爲めに迷惑して居る。議政壇上のみでない。名士の論說にも、教授の講義にも博士の演說にも牧師の説教にも、乃至自己の思想の組立にも、詭辯と曲論とが邪魔に這入つて仕方がない。著者が之を如何に説明し如何に解決し、如何に之に生命付けやうとして居るのであらうか、著者の眞面目な研究態度は、必ず迷うて居る舊い人、行き詰つて居る新しい人の深甚な注意を惹くことであらう。

四六判五百余頁
バビリン美裝
定價貳圓五拾錢
郵稅拾貳錢

正大五年四月六日第三種郵便物認可
大正十二年一月廿八日印刷納本(毎月一回一日發行)
哲學研究 第七十一號 定價金四拾錢 郵稅金壹錢

社會式株版出外内 (阪大座口替攝) 下條七院洞西市都京 元兌發
(番五五九貳參)